

5-2 ゾーン別のモデル地区の整備計画

第2次計画で示されたゾーン毎のモデル地区の整備イメージについては、今後も計画・整備を引き継いで進めていく。

以下に、モデル地区の整備イメージを示すが、第2次計画以降に一部あるいは概ね整備済の地区については、現状の整備状況に新たに想定される整備を加えた整備イメージを示すものとし、未着手の地区については、第2次計画を引き継いだ整備イメージを示す。

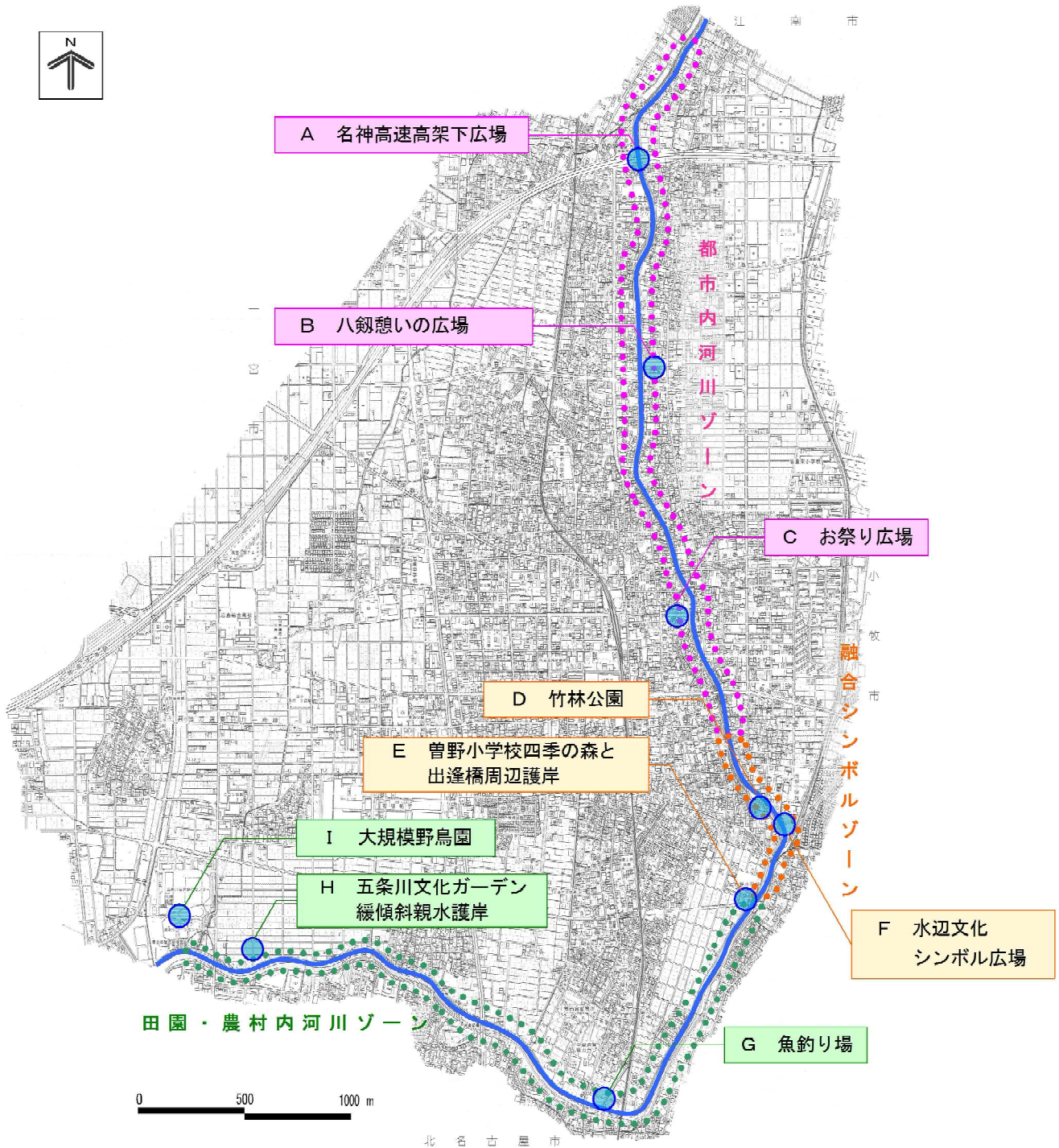


図 5-2-1 モデル地区の位置図

5-2-1 都市内河川ゾーンのモデル地区の整備計画

A 名神高速高架下広場

- 五条川の両側を明るく潤いのある水辺空間として整備し、ベンチなどの休憩施設を配置する。
- 草木によって潤いと安らぎが感じられるよう、護岸や右岸の堤防道路などを緑化する。
- 右岸は歩行者専用道とし、名神南橋の自動車交通に対して安全に横断できるよう、舗装材に変化を与えてドライバーの注意を喚起する。

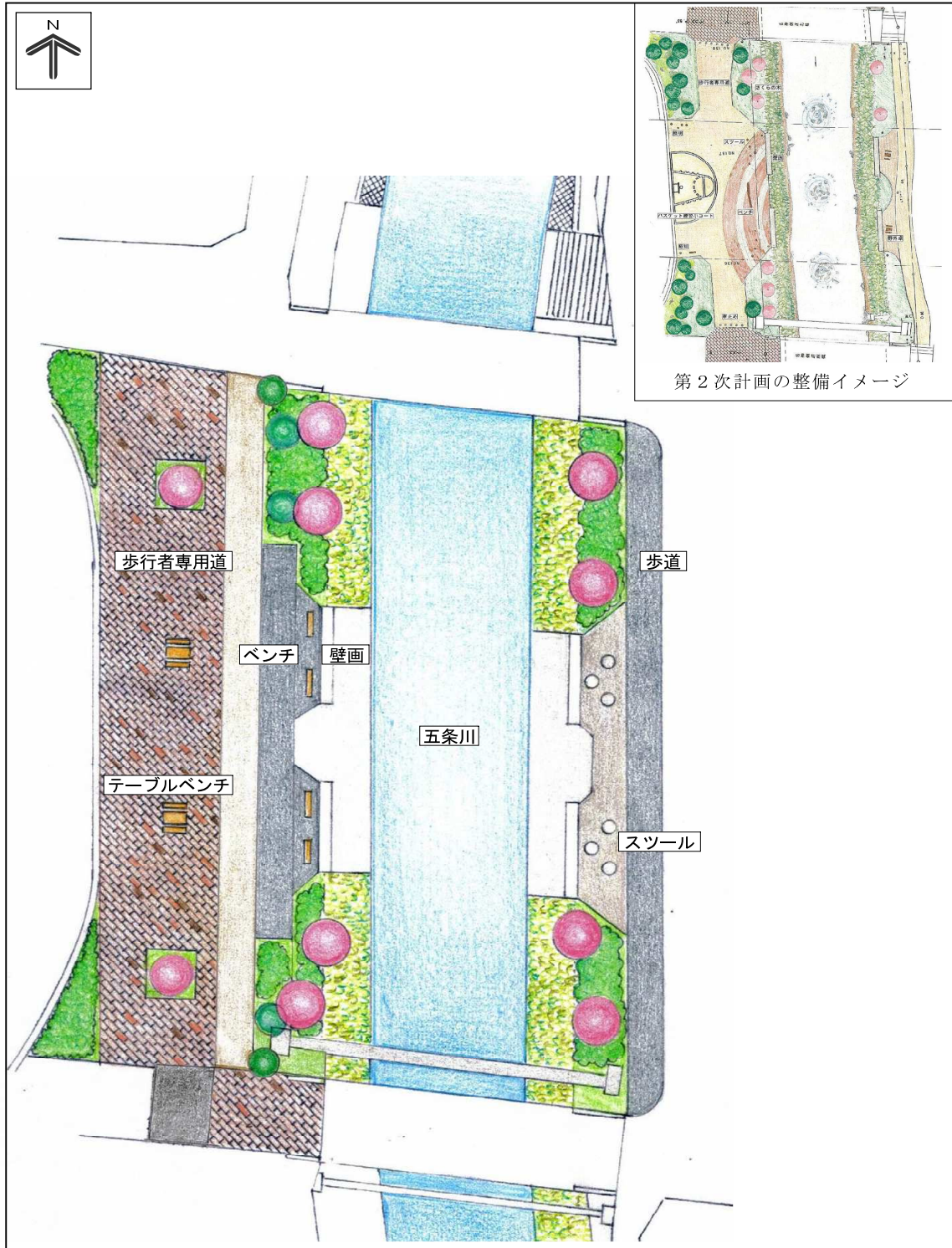


図 5-2-2 名神高速高架下広場の整備イメージ

B 八剣憩いの広場

- イベントなどの会場として、人々が集まる広場空間を確保し、空地に桜などを植樹する。
- 堤防道路沿いは、トイレ、ベンチなどを配置し、散歩やウォーキングの休憩場所とするとともに、水辺に近づく親水護岸を整備する。



図 5-2-3 八剣憩いの広場の整備イメージ

C お祭り広場

- 桜まつりなどのイベント会場として、広場とステージを配置する。また、第三児童館を活用した市民交流の場とする。
- 都市計画道路桜通線の整備に合わせ、道路からのアクセスや岩倉駅方面からの玄関口としての整備を充実する。

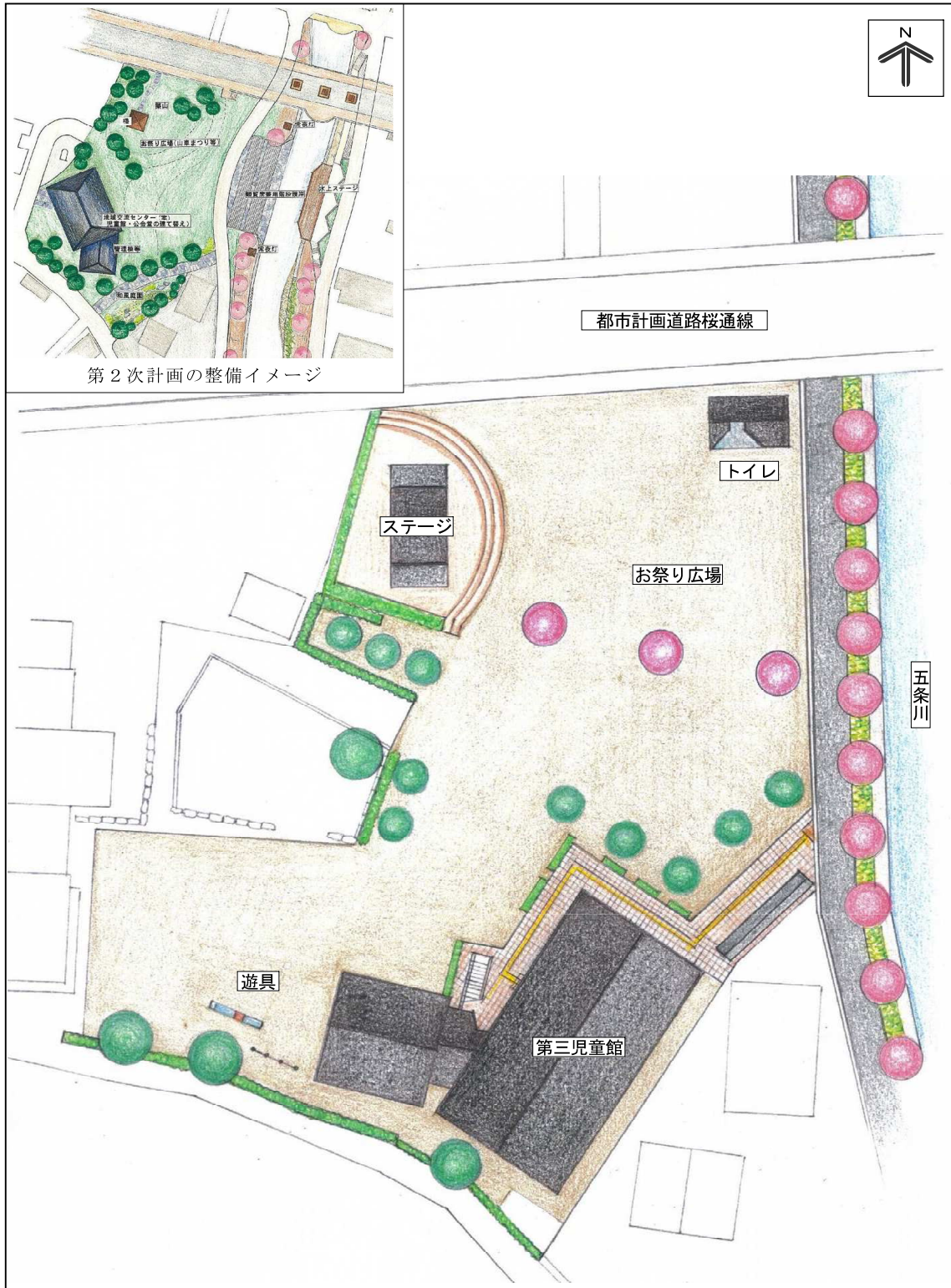


図 5-2-4 お祭り広場の整備イメージ

5-2-2 融合シンボルゾーンのモデル地区の整備計画

D 竹林公園

- 公園内に竹林を保全し、市民協働により体験イベントや維持管理を実施する。
- 公園周辺は親水デッキにより親水性の向上を図るとともに、大市場橋までの右岸で自然と共生した多自然川づくりを進める。

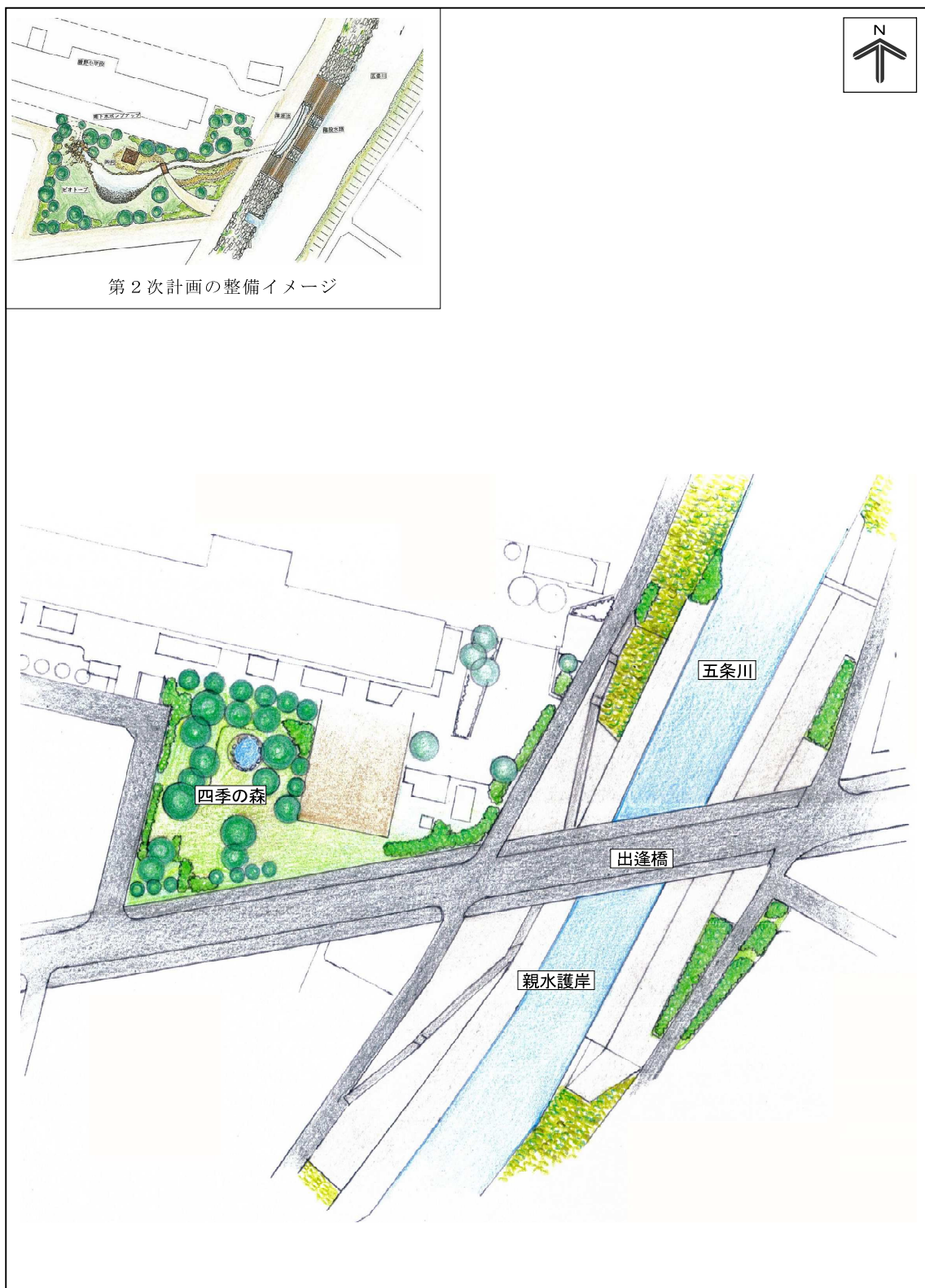


図 5-2-5 竹林公園の整備イメージ

※ 河川敷にできた小さな池。

E 曾野小学校四季の森と出逢橋周辺護岸

- 曾野小学校内に四季の森が整備され、植物や生き物の観察の場とする。
- 出逢橋の周辺護岸は、水辺に近づく親水護岸とし、当面は魚釣り場として利用する。



第2次計画の整備イメージ

図 5-2-6 曾野小学校四季の森と出逢橋周辺護岸の整備イメージ

F 水辺文化シンボル広場

- 広場などを配置してイベント等の活動拠点とし、多様な交流の場として整備する。
- 広場から五条川の水辺への眺望を確保するとともに、樹木や花壇などを配置し、水と緑に囲まれたエコ・ガーデンを形成する。
- 待合橋北側は葦等の水生植物を植栽し、生き物の生息環境を整え、自然観察の場とする。



図 5-2-7 水辺文化シンボル広場の整備イメージ（第2次計画の整備イメージ図）

5-2-3 田園・農村内河川ゾーンモデル地区の整備計画

G 魚釣り場

- 名鉄犬山線と生田橋の区間について、栈橋やデッキを突き出した釣り場を整備する。
- 周辺の護岸は、蛇籠などを用いた護岸とし、魚類の生息環境を向上する。
- 堤防道路に近接して、トイレや東屋などの休憩施設や自転車置場を配置する。

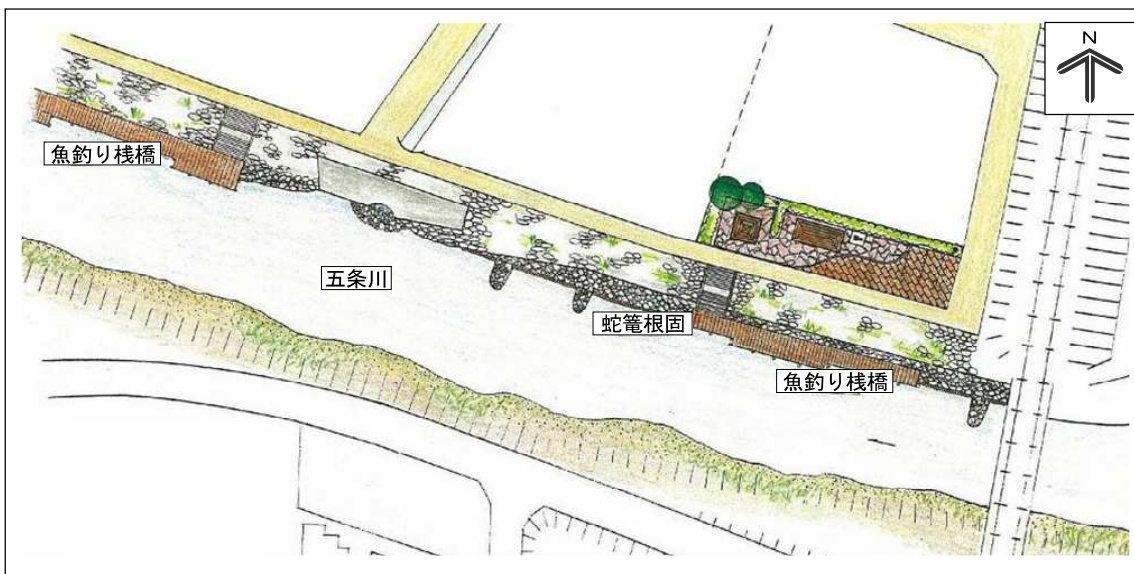


図 5-2-8 魚釣り場の整備イメージ（第2次計画の整備イメージ図）

H 五条川文化ガーデン緩傾斜親水護岸

- 自然、文化と憩い、やすらぎなどが融合したゾーンとして整備する。
- 河川改修に合わせて、大規模なワンドを整備し、生態系豊かな場とする。



図 5-2-9 五条川文化ガーデン緩傾斜親水護岸の整備イメージ (第2次計画の整備イメージ図)

I 大規模野鳥園

- 五条川右岸流域下水道終末処理場および愛北クリーンセンター、青少年希望の家一带の緩衝緑地帯を軸に樹林地を育成し、野鳥が生息できる環境形成を図る。
- 北名古屋市、一宮市などの近隣都市との連携・協力を強化する。
- 河川改修に合わせて、ワンドを形成するなど水際に変化をつけ、生態系に配慮する。



図 5-2-10 大規模野鳥園の整備イメージ (第2次計画の整備イメージ図)